

地誌 第25回「ヨーロッパ地誌⑥～ヨーロッパ各国情勢②フランスとドイツ～」

○今回のポイント

フランス情勢

○フランスの社会

住民構成	宗教	面積	人口	首都
<ul style="list-style-type: none"> ・ [① _____] 系(大部分) ・ バスク系(ピレネー山脈) ・ ケルト系(ブルターニュ半島) 	[② _____]	55.2 万km ²	約 6345 万人	パリ

○フランスの [③ _____] …出生率、自然増加率が高い水準になっている。

●ヨーロッパの主要国の外国人労働力人口の内訳

フランス		イギリス		ドイツ	
ポルトガル	299	ポーランド	371	トルコ	852
アルジェリア	169	アイルランド	163	イタリア	395
モロッコ	168	インド	152	ポーランド	207
トルコ	69	南アフリカ共和国	85	ギリシャ	200
イタリア	67	フランス	79	クロアチア	179
チュニジア	62	パキスタン	66	セルビア	155
計	1,540	計	2,280	計	3,893

単位は千人。統計年次はフランスとイギリスが2009年、ドイツが2008年。

【世界国勢図会 2011/12】による

○フランスの産業

農業	工業
<ul style="list-style-type: none"> ○農業に適した土地が広く、肥沃な土壌が分布するため、 [④ _____] となっている。 ○北部のパリ盆地 <ul style="list-style-type: none"> ・大型機械を導入した [⑤ _____] の大規模栽培 ⇒土地生産性、労働生産性がきわめて高い。 ⇒ 世界有数の小麦生産国／輸出国 ○南部の地中海沿岸 <ul style="list-style-type: none"> ・ [⑥ _____] 栽培 ⇒ブドウ、ワインも世界有数 	<ul style="list-style-type: none"> ○ [⑦ _____] …フランス最大の総合工業地域、出版印刷、機械、自動車 ○鉄鋼業の推移…鉄鉱石が産出された [⑧ _____] で鉄鋼業。現在は枯渇して衰退。北部の [⑨ _____] 南部のフォスなど臨海部で輸入鉄鉱石。 ○南部の工業…マルセイユで石油化学、 [⑩ _____] で航空機械工業(国際分業体制) ○1970年代の石油危機 ⇒ [⑪ _____]

③ フランスの整理

- 北部地域**
 - リールを中心に伝統的な羊毛・綿工業がさかん
 - 近年では臨海部が、鉄鋼と石油化学の工業地として成長
- パリとパリ盆地**
 - 大消費地を控えた国内最大の工業地域で、自動車、化学、機械などの工業がさかん
 - ラ・デファンス地区など都心部を再開発
 - パリ盆地ではケスタ(→p.8)地形がみられ、小麦栽培が中心
 - 農業経営規模は大きく、機械化されて集約的な混合農業が展開
- トゥールーズ**
 - エアバス社の工場があり、ヨーロッパの航空機産業の中心地



- ロレーヌ地方**
 - ロレーヌ鉄山と、ドイツのザール炭田が結合し、鉄鋼業が発展
 - ロレーヌ鉄山はりん分を多く含むミネト鉱 → トーマス製鋼法(→p.115)
 - 現在は鉄鋼業は衰退し、化学や自動車などの工業がさかん
- リヨン地域**
 - 伝統的な絹織物産地で、化学繊維産業もさかん
 - 近年は、化学、医薬品、機械工業がさかん
 - フランスの金融の中心で、銀行の本店が多い
- 地中海沿岸**
 - マルセイユは国内最大の貿易港
 - フォスに石油化学と鉄鋼の臨海工業地を形成
 - 農業は地中海式農業で、ぶどうの栽培がさかん
 - コートダジュールやラングドック・ルシヨンなどの海浜リゾート

ドイツ情勢

○ドイツの社会

住民構成	宗教	面積	人口	首都
⑫ ゲルマン系	・北部[⑬] ・南部…カトリック	35.7万km ²	約 8200 万人	ベルリン

○ドイツの特徴

⑭	第二次世界大戦後、冷戦構造に巻き込まれ、 ドイツは国家が東西に分断された 。首都のベルリンは東ドイツの領土内にあり、首都ベルリンも東西に分裂したので、西ベルリンは西ドイツの飛び地となった。1989年にベルリンの壁崩壊、90年に国家統一、91年にソ連崩壊。
⑮	ドイツはもともと地域名で、「ドイツ」という統一国家が出来たのが1871年。それまではドイツという地域にいくつもの領邦国家が分立していた。そのため、地方分権が進み、各州の自立性が高くなっており、 3都市（ベルリン・ハンブルク・フレーメン）と13州から構成される 連邦国家となっている。
⑯	1960年代の高度経済成長を契機に、[⑰]やイタリアから不足した労働力を補ったが、石油危機以降の経済停滞により、失業率が低下して右傾化。移民排斥運動が行われている。
⑱	旧東ドイツは社会主義体制下での設備の老朽化、生産性の低さから旧西ドイツに比べて工業化が遅れている。そのため、旧東西領域における経済格差が問題になっている。

○ドイツの産業

農牧業	工業
a. 北海・バルト海沿岸…大陸氷河の影響。 [⑲]	・ [⑳] の人口割合が高い
b. 北ドイツ平原…[㉑] と呼ばれるやせ地。 混合農業（ライ麦・ジャガイモ・豚）	・ ヨーロッパ最大の工業国…自動車、化学、鉄鋼、電気機械、エレクトロニクス
c. 中南部…[㉒]（小麦・テンサイ・肉牛・豚）	・ [㉓] +ライン川の水運でエッセン、ドルトムント、デュースブルクが発展。近年、設備老朽化と資源枯渇でケルンなど南部に移動。
d. 南西部…[㉔] 栽培	・ [㉕] …港湾都市、造船、石油化学工業
	・ [㉖] …ビール、自動車、エレクトロニクス
	・ [㉗] …欧州中央銀行所在地。金融中心。

③ ドイツの整理

- ルール地方**
 - ヨーロッパ最大の重化学工業地帯
 - ルール炭田の開発を背景に発達
 - 一時衰退していたが、1980年代に構造転換をはかり、機械、化学などの工業に移行、さらに近年ではハイテク産業や商業も発展
- フランクフルト**
 - EUの欧州中央銀行がある、世界の金融の中心地の一つ
 - フランクフルト空港はヨーロッパ有数のハブ空港(→p.195)
- ザール地方**
 - ザール炭田とローレヌ鉄山の結合で鉄鋼業が発達していた
 - 石炭・鉄鋼産業の不振で工業が衰退、近年は機械・化学工業への転換が進む



- 北ドイツ平原**
 - 氷河侵食によってやせたハイデ地帯
 - 土地改良や化学肥料の投入で耕地化し、混合農業が行われる
- ザクセン地方**
 - 世界有数の褐炭とカリ塩の産地で、化学工業が発展した
 - 近年は、自動車産業が中心
- 中南部丘陵地**
 - レス(→p.37)におおわれた肥沃な土壌
 - 混合農業が中心
- 南ドイツ地方**
 - ミュンヘンやシュツットガルトでは、自動車やハイテク産業がさかん